

2024年度(通算)第12回 名桜大学高大接続勉強会 報告書

2024年11月25日(月)名桜大学学生会館(SAKURAUM 6階)スカイホールAにおいて、名桜大学高大接続勉強会を開催しました。勉強会は北部地区高等学校教員と大学教員の相互理解の場として、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることを目的としています。今年度2回目(通算12回)は、高校から8名、大学から17名の参加でした。

前半は、「名桜大学のキャリア支援と学科別キャリア教育の現状」について、本学のキャリア開発委員会の金城亮委員長より全学的な状況と国際学部を取組について報告があり、仲田好邦副委員長から人間健康学部を取組についての説明がありました。後半は、「大学での学びとキャリア教育」をテーマに、大学での学びが進路選択にどのように結びついたか、大学で身に付けておくべきことは何かなどについて、教育、行政、大学職員、福祉などの進路を選択した国際学群語学専攻、国際文化専攻、スポーツ健康学科、看護学科の4名の卒業生による体験発表がありました。

1. キャリア開発委員会の報告

最初に、金城亮キャリア開発委員長より、就職内定に関する全国的なデータを基に、就職内定取得の時期が早期化し、4年次の始めには就活を終了する者が約半数に上るということでした。本学の2024年卒の就職率は91.2%(対前年度比2ポイント上昇)で、県内大学全体の就職率89.9%より高い数値だということでした。その後、本学におけるキャリア支援の取組の中で、就職活動における大学のフォローについて、説明会等の支援の他、就職・進学活動時の経費支援として、就職・進学活動における経費を一部補助する制度についての説明がありました。引き続き、各学部・学科におけるキャリア教育についての説明がありました。

仲田好邦副委員長からは、人間健康学部スポーツ健康学科の入学から卒業までのキャリアパスの絵の説明があり、4年間の活動が想像でき、桜の色と自然を感じさせる緑、青い海の調和が大学の学びに期待を感じさせて、「自分の未来は自分で創る!」という発達の意図も伝わってきました。多様な進路、多角な正課、多彩な課外、多様な人材...キャリアパスが、多岐にわたり、多面的な学びを収斂させることが課題であるという説明に納得しました。高校の先生からは、「大学のキャリア支援については、中々知ることができず、高校生に進路指導をする中で、難しいと感じる点でもあります。キャリアについての話は定期的に聞きたいなと思います。」という感想がありました。

2. 卒業生による体験講話

〈養護教諭採用試験に合格〉スポーツ健康学科卒 金城良子さん

スポーツ健康学科は沖縄の自然や環境を活かした授業や活動が多く魅力を再確認できる場所です!

スポ健では、「健康領域」に進み、養護教諭免許を取得、学習塾で4年間アルバイトをしました。

ボランティアやサークルなど国頭村や伊是名島等でのボランティアを4年間やりました。

名桜エイサーに所属し、大阪遠征やお盆時期の道じゅね〜を経験(採用試験のPRにも!)

保健室ボランティアで健康診断の手伝いをしたことなど、大学生活を紹介しました。

地域と密着している大学だからこそ、管内の小中学校との関わりが多く、学校現場を早くから知ることができ、将来の見通しが持てた。

と、大学生活を振り返りました。

そして、「違和感はある、その正体がわからない」...

自分を知るまでに時間が必要なタイプだったため、大学での時間は人生に必要な時間だったと思う。「自分」いう人間を理解する時間でした。大学では、人生を生き抜いていくために身に付けるべきことを、いろいろ知ることができました。



〈行政〉 国際学群語学教育専攻卒 親川妃奈子さん

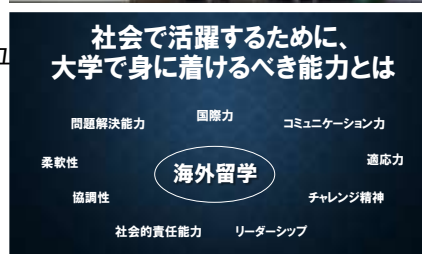
「航空業界」に憧れ、名桜大学に進学することを決意。しかし、2020年のコロナ禍で入学式は中止、希望した大手航空会社は、コロナ禍で大赤字、2021年は新卒採用の見送り、従業員9000人削減、・・・入学後の悲劇を経験したと振り返りました。しかし、大学進学後意識していたことは、「自分のやりたいことを明確化するために様々なことに挑戦」すること。就職先を決めるきっかけは、大学時代の「学び」と「経験」でした。英語でのコミュニケーション力を磨くためにオンライン英会話で勉強し実用英語技能検定に挑戦、「英語教員免許取得」を取得。不登校や貧困家庭の生徒を対象に大学生による学習支援「ぴゅあ」を通して、また、教育実習を通して生徒と関わることの楽しさや難しさ、教材研究の大変さ、やりがいを感じていました。ところが、ボランティア活動を通して分かったことは、名護市の子どもたちの進学率の低さ、様々な悩みを抱えた生

に前向きな生徒が多いことを知り、「生徒に直接勉強を教える立場ではなく、貧困やいじめ、不登校で悩みを抱える名護市の子どもたちを減らすための支援や制度を提供する立場になりたい」と思うようになり、大学3年生の後半に進路を決め独学で勉強を開始しました。名桜大学は、自分の専攻以外の分野の勉強もできるところがポイント！名桜大学の教養科目「数的処理、ミクロ経済学、マクロ経済学、憲法など」公務員試験勉強に役立つ科目が沢山ありました。何事にも真面目に取り組んだ。大学での学びと経験を今後の業務でも活かしていきたい。と締めくくりました。



〈大学職員〉 国際学群国際文化専攻卒 伊佐正アンドレスさん

ペルーのパシフィック大学在学中に名桜大学に留学生として1年間過ごしました。その後帰国せず、名桜大学国際学群に入学。在学中は、語学だけでなく、沖縄・日本を始め、アジア・中南米・欧米の歴史や文化を学び、国際社会への理解を深めました。GPACアジア国際学生会議への参加、日本語能力試験N1(1級)取得、英語TOEIC970点、国連英検B級取得など、勉学に励みました。正課外の学びでは、言語学習センター(LLC)でチューターとして活動し、異なる国籍や文化的背景を持つチューターと働くことによって、国際感覚を養い、コミュニケーション能力や協調性を高めることができました。と振り返りました。2014年に卒業し、現在教務課に籍を置き、学習支援係主任として様々な業務に携わっています。



〈看護・福祉〉 看護学科卒 宮里拳吾さん

趣味は筋トレ(写真で紹介)、名桜大学に入学したきっかけは、「家から近い」「バレー部がある」ことでした。在学中は、アルバイト、共通の友達(北部)、部活の先輩後輩、看護学科では、様々なボランティア活動に関わりました。やりがいを感じるとともに、地域で困っている人がいるという気づき、宮里朝市 地域住民との関わり、地域看護とはどういうものかのイメージを構築しました。卒業後は、埼玉県、北

医師会病院、琉球大学病院、スポーククリニック、パーソナルトレーナーで勤務し、現在は2024年2月オープンした訪問看護ステーションク

ラセル名護で管理者として、名護市、本部町、今帰仁村、国頭村を

訪問！訪問看護とは、事務所から利用者宅へ訪問して介護保険・医療保険を利用して生活を支える仕事です。大学では、看護学の基礎、実習を通して“なりたい看護師像”の形成や計画性の大切さを学び、協調生や集団の強さも自覚しました。と振り返りました。



- 大学 4 年間で学び、とりわけ卒業までのキャリア形成を知る事ができました。各学科において、多くの特色ある科目があり、今後の北部地区での名桜大学の役割、存在意義を強く感じました。
- 貴学卒業生による講話では、様々な背景のある方々のお話を聞くことで参考になりました。本校在校生への話題にあげさせていただきます。
- 県外出身者に対してギャップを感じていることを再確認できました。
- 卒業生の金城さんのお話の中にあつた、北部(県)出身学生の特徴として「違和感はある、その正体が分からない」というコメントが強く印象に残っています。その正体を掴んで言語化し、問題解決を支援できるような大学教育・キャリア教育を目指さなければいけないと思いました。特に卒業生の話を聞いたのが良かったです。名桜大学でしっかり学び現在社会人として活躍している方々に、高校でも話してもらえるような機会ができればなと思いました。
- 卒業生の方々が、貴学において豊かな学生生活を送っていたことが分かって良かった
- 名桜大の卒業生の大学生活を通しての様々な経験が、自己理解であり、現在の職業に活かされていること。
- 大学が伸ばそうとしているところ、必要としている力に対して、高校がどのように繋げていかをイメージすることができました。また、卒業生講話で感じたことは、キャリア支援の充実に加え、多様な課外の活動の様子が汎用的能力を高めているのだと感じました。
- プログラム後半その 1 の卒業生の話が 1 番印象に残りました。4 人の方の話を聞いて、大学生活から就職に向かう過程がよく伝わりました。社会人になって体験した出来事から大学で身につけておいて欲しいことをそれぞれが伝えて頂いたことを、現場に戻って高校生に話をしたり、卒業生講話で話して頂きたいと感じました。
- 卒業して社会で活躍している卒業生の話はぜひ来年も取り入れて頂きたいです。名桜大学で学んだことが社会でどのように繋がっているのか知ることは、進路指導の上で非常に重要であると感じます。

2. 今回の高大接続勉強会について、感想、要望、忌憚のないご意見をお寄せください。

- 入学前教育プログラムは、声かけをして頑張らせたい。
- 大変貴重な時間を共有させて頂きました。参加できて良かったです。
- 可能であれば、高校側からも一つは発表の機会があっても良いかと思います。
- 高大接続なので、相互の発表と質問時間があれば大学教員の参加も多くなるような気がします。
- 貴学の様々な取り組みを丁寧に説明していただいた貴重な会でした。高校生、職員にも伝えていきたいと思います
- 卒業して社会で活躍している卒業生の話はぜひ来年も取り入れて頂きたいです。名桜大学で学んだことが社会でどのように繋がっているのか知ることは、進路指導の上で非常に重要であると感じます。
- 自身の反省として、高校の先生方に個別にお声掛けをして意見交換すればよかったと思います。
- キャリア教育が初めて取り上げられました。高校教員にとって、大学・各学部学科の入口から出口までの教育、学習支援、課外活動等の大学生活の過程が一つにつながり、大学に対する理解がより深まったのではないかと思料します。

3. 今後の高大接続勉強会で取り上げて欲しいテーマや開催方法について

- 本校から進学した生徒との交流
- 出席校の卒業生の講話が含まれているとありがたいです。
- 高大それぞれのキャリア教育の違いを話す会のような。
- あと、高校生にも来ていただいて喋っていただける機会やテーマがあったらいいかと思います。
- 開催時期を 12 月へずらすことは可能でしょうか？ほとんどの高校は成績処理をしていて、複数での参加調整が非常に厳しいと思いました。
- 大学側からの情報提供のみならず、大学が高校側の理解を深めるテーマ設定もあるとよいかと思います。具体的には、すぐには思いつきませんが、大学側で議論するのもよいと思います。



高大接続勉強会で「キャリア教育」をテーマに取り上げるのは初めてでした。その内容は高校の先生方や大学教員，特にリベラルアーツ機構教員にとっても本学のキャリア支援の様々な情報に触れ、共有できた有意義な機会となりました。

高校・大学を問わず、在学中の学びは自分の礎を築くものであり、自らの将来像を描く上でも、先輩の学びが大いに参考になります。今回看護学科卒業生の宮里拳吾さんは、「在学中に先輩の経験談を聞くとか、卒業生や現職の方の話聞く機会がもっと欲しかった。卒業後の進路決定に対して相談役が欲しかった」と述べていました。さらに、「看護師に関しては勤め先の病院、部署で看護師のキャリアが良くも悪くも左右される可能性もあるので、先輩看護師と関わる機会を増やす必要があると思います」という学生時代には想像し得ないような貴重なアドバイスもありました。

大学では、それぞれの専攻で先輩を招聘して講話を聞く機会があります。当然のことですが、自分の専門ばかりだけではなく、様々な状況を聞き、納得した上で進路選択・決定に活かすことが重要だと改めて感じました。また、4名の卒業生に共通するところは、在学中のボランティア活動を通して自己理解を深め、現在の職業につながっているということです。本学の特徴ともいえる在学中のボランティア活動が様々な力を育み、自らの進路や生き方に活かされていることも伝えることができました。

最後に名桜大学高大接続勉強会は、参加者にとっては有意義な学びとなっていますが、その情報が参加者だけに留まっているのではないかと懸念もあります。今後は、事後アンケートの中にあるさまざまな要望等を参考に、その改善策も検討した上で、高校との連携を深め、地域の人材育成に貢献する大学の存在意義を伝えていきたいと考えています。キャリア開発委員会のご協力に心より感謝申し上げます。